

「全国まちづくりメッセ」開催報告 「夢の風」福の国から吹くハーモニー

1 趣 旨

特徴あるまちづくり活動を展開する全国の行政関係者や実践団体が一堂に会し、活動事例の情報展示や芸能発表、特産品の販売等、まちづくりをより実践的に紹介しながら、まちづくり関係者及び一般市民が情報を交換し、交流を深める。

2 経 緯

福井市のまちづくりは、平成9年度自治大臣表彰を「住民参加のまちづくり」部門で受賞し、平成13年度からスタートした総務省「わがまちづくり事業」のモデルともなっていることから、同大臣表彰受賞団体を中心に全国へ参加を呼びかけた。

3 期 日

平成16年10月9日(土)～10日(日)

4 会 場

福井県産業会館

5 出展数

計66団体(30都道府県1区21市25町2村)

6 参加者数

計49,500人(1日目16,600人+2日目32,900人)

7 事業内容

交 風(交流の風)..... 全国まちづくり情報物産展

まちづくりパネルセッション

まちづくり物産展示販売

まちづくり実演体験コーナー等

姉妹友好都市(熊本市、結城市) なぎさ防災会(東京都)

勝浦町(徳島県)等55団体が出展

響 風(響きある風)...まちづくりストリートカーニバル

ストリートを舞台に地域伝統芸能パフォーマンスを披露

4団体が出演予定だったが台風のため中止

楽 風(楽しみの風)..... 全国まちづくり食道街

全国まちづくり食べ歩きコーナー

富士宮やきそば(静岡県)

須崎鍋焼きラーメン(高知県)

越前おろしそば(福井市)等11団体が出店

彩 風(彩りの風)..... 全国まちづくりステージ

全国のまちづくり活動で育まれた多彩な芸能を紹介

まちづくりクイズ大会やキャラクターショーも実施

越中おわら風の盆(富山県)

山鹿灯籠おどり(熊本県)等9団体が出演

福井市ブースの内容

まちづくり10年のあゆみ

市民の誇り百選、観光PR等

福井市特産品(金福すいか、サラダニンジン、生花等)

近隣町村コーナー(美山町、越廼村、清水町)



8 まちづくり提言

3日間にわたり開催した「住みたくなるまちづくり全国交流大会」において、全国のまちづくり関係者と今後のまちづくりについて様々な意見交換を行った。

これらの意見を踏まえ、今後のまちづくりの基本的な考え方を大会最終日に提言した。



住みたくなるまちづくりは、私たちがつくります。

まちづくりに参画することに、意義と誇りを持ちます。

交流による地域の新たな絆づくりとともに、行政・NPOなどとの連携・協働に努めます。

「まちづくり、地域づくりは息の長いもの。

一歩一歩着実に、みんなで楽しく進めましょう。」

9 事業の総括



総務(自治)大臣表彰や地域伝統芸能大賞を受賞する等、北は北海道から南は沖縄まで、先進的で特徴あるまちづくり活動を展開する自治体・団体が福井市に集結。まちづくり見本市として、活動事例の情報展示や物産販売、芸能発表、名物料理の調理販売等、見て聞いて味わって、まちづくりをわかりやすく紹介しました。

2日間にわたる「メッセ」や前日に開催した「情報交換会」を通して、出展者と福井市、また、出展者同士が情報を交換し、交流を深めることができ、出展者からは、「福井市に来て良かった」「また福井市に来たい」「福井市に住みたい」といった声も寄せられています。



参加者数は、当初の目標を上回る約5万人の方々にご来場いただき、会場は行列や立見が出るなど大盛況でありました。これは、これまでまちづくりに携わっていなかった市民の方々も数多く参加したと考えられ、多くの市民の方々にまちづくりに触れる機会として、まちづくりの楽しさや喜びを体感していただきました。



以上のことから、全国の先進的で特徴的なまちづくり情報を交換し、全国にまちづくり交流の輪が広がったとともに、これまでまちづくりに携わっていなかった市民の方々にもまちづくりに触れる機会となり、住民自らが新たなまちづくりに取り組むための第一歩を踏み出したと考えます。

キャッチコピー&演出コンセプト

夢の風

福の国から吹くハーモニー

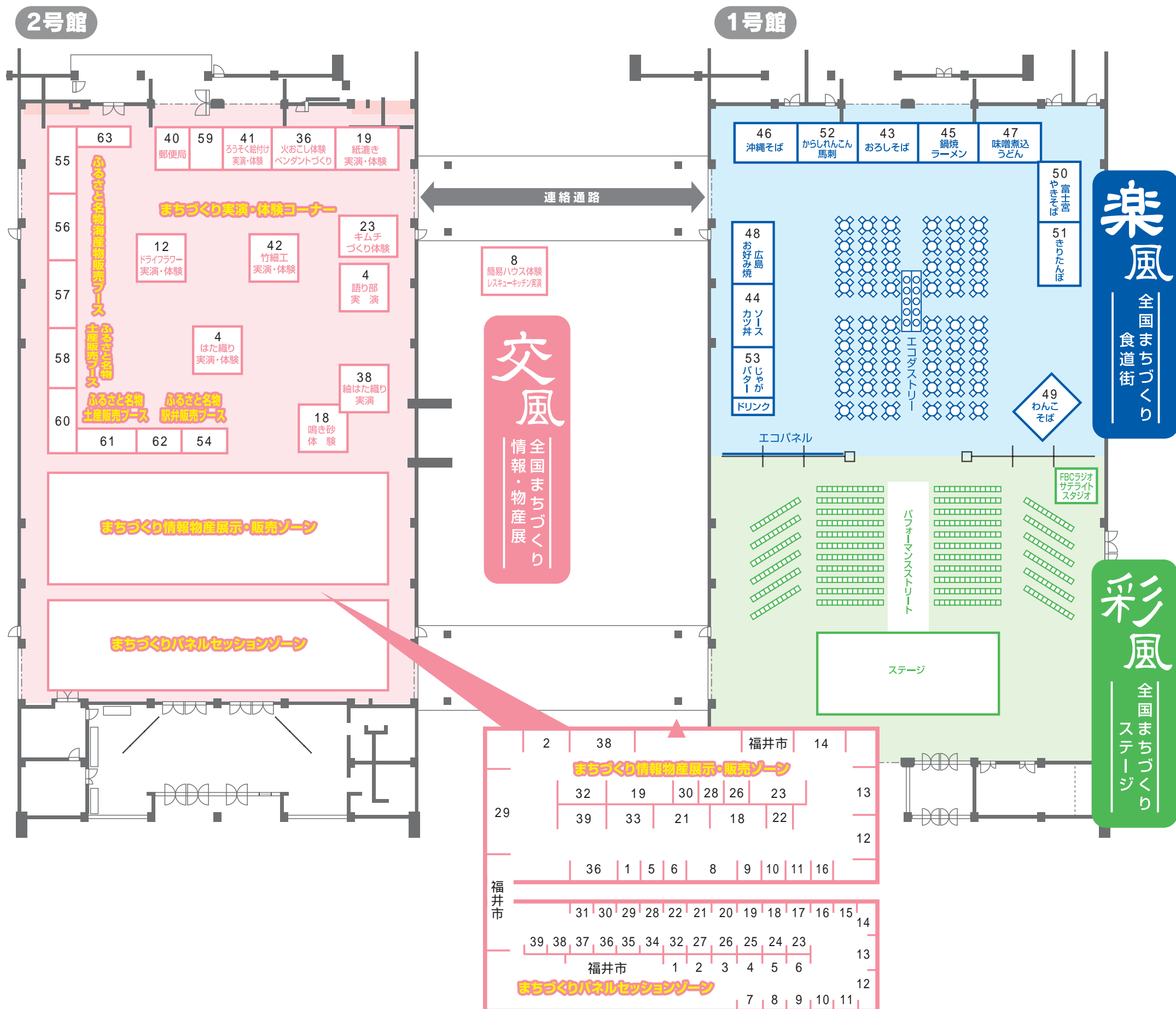
2004年。。。
 地方分権時代のまちづくりの実践として福井市が取り組んできた「うらがまちづくり事業」「21世紀わがまち夢プラン事業」を展開してから10年目の節目の年。
 市民と行政の協働による運動会型のまちづくり10年間の成果を総括し、新たな夢の一步を踏み出す年です。
 人が出会い、交わり、共感する場所。
 ここは、市民と行政が奏でるハーモニーが響き、未来への順風が吹く場所です。

風は空気が移動する現象。
 風は自ら生まれません。
 風は人々の情熱で動き始める。
 市民と関係者、行政の熱き思いによって……。
 風をモチーフに
 「全国まちづくりメッセ」を
 表現していきます。

5つのゾーン構成で展開

- 交風**
 交流の風
 全国まちづくり情報・物産展
 出会い、交わり、賑わいあふれる東西南北の風を体感いただけます。
 ・大臣表彰受賞団体などによるまちづくりパネルセッション
 ・まちづくり物産の展示、資料展示
 ・まちづくり実演・体験コーナー
 ・福井の技コーナー
 ・村おこし、町おこし商品の販売
 ・まちづくり出張郵便局
- 響風**
 響きある風
 まちづくりストリートカーニバル
 共鳴、共感、多彩なパフォーマンスが織りなす感動の風を体感いただけます。
 ・大臣表彰受賞団体などによるパフォーマンス
- 楽風**
 楽しみの風
 全国まちづくり食道街
 おいしさ、うれしさ、たのしさを溢れる喜びの風を体感いただけます。
 ・全国まちづくり食べ歩きコーナー
- 彩風**
 彩りの風
 全国まちづくりステージ
 多彩、多才、個性的な彩りのある美しき風をお楽しみいただけます。
 ・オープニングセレモニー
 ・全国の活動事例やパフォーマンス披露
 ・フィナーレ
- 風の回廊**
 風のコリドー
 出展者情報交換会
 全国からの風が一堂に会する交流会を開催します。
 ・前夜祭

ネーミングは来場者にとって「わかりやすい」ことが一番大切だと考えます。そこで、ゾーン展開ごとの総称には特異なものを用いず、誰が見ても内容が想像できるネーミングにします。
 ただ、催事全体の統一イメージを図るために、「5つの風」でも表現し、アイキャッチとして展開します。



交風
 全国まちづくり
 情報・物産展

楽風
 全国まちづくり
 食道街

彩風
 全国まちづくり
 ステージ

2	38	福井市						14				
まちづくり情報物産展示・販売ゾーン												
	32	19	30	28	26	23	13					
29	39	33	21	18	22		12					
	36	1	5	6	8	9	10	11	16			
福井市	31	30	29	28	22	21	20	19	18	17	16	15
	39	38	37	36	35	34	32	27	26	25	24	23
	福井市						1	2	3	4	5	6
まちづくりパネルセッションゾーン												
							7	8	9	10	11	

出展団体一覧表



出展番号	所在地	事業内容
北海道/東北ブロック		
1	北海道/沼田町	ほたるの里整備、ほたる祭、ほたる保護条例、環境配慮のまちづくりへの展開
2	岩手県/陸前高田市	全国規模のイベント(サイクルロード、全国太鼓フェスティバル)活発なコミュニティ活動(りんごまつり、木炭まつり)
3	秋田県/鷹巣町	住民参画のワーキンググループ形式で北欧モデルの福祉システム整備、日本最先端自治体と称される(福祉、遺跡、環境整備、中心商業地開発、代替バスによる通院手段確保等)
4	山形県/南陽市	民話「夕鶴」を活用したまちづくり、「夕鶴の里」整備、語り部の里(民話語り部養成)
5	福島県/川俣町	国内唯一の中南米民俗音楽祭「コスキン・エン・ハボン」(folkloreフェスティバル)、町政懇談会、花いっぱい運動
6	福島県/矢吹町	ワークショップ方式で住民参画の行政計画策定、地域づくり活動育成支援事業
関東/甲信越ブロック		
7	東京都/三鷹市	丸池復活整備ワークショップ(市民・市・都の協働事業)
8	東京都/江戸川区 なぎさ防災会	防災活動(都市型集合住宅での防災体制づくり)
9	群馬県/榛名町	生涯学習とまちづくり(文化活動組織34部会20団体、約1100人余)住民主体による文化会館「エコール」建設、はるな梅マラソン
10	山梨県/増穂町	地域に福祉活動拠点整備、ボランティア・市民活動団体による地域福祉
東海/北陸ブロック		
11	静岡県/引佐町	花と緑のまちづくり事業
12	岐阜県/大野町	バラのまちづくり(バラ苗生産日本一、バラ公園整備、バラ祭)
13	岐阜県/郡上市	めいほう高原音楽祭、第3セクターによるまちづくり(明宝ハム等の開発による村おこし)
14	富山県/八尾町	坂のまちアートinやつお開催事業、坂のまち千年会議、おわら風の盆
15	富山県/城端町	城端むぎや祭り
16	石川県/金沢市	浅の川園遊会
近畿ブロック		
17	滋賀県/五個荘町	てんびんの里づくり、ふるさとまるごと博物館(五個荘商人は江戸時代てんびん棒1本で全国に行商に向いた近江商人)
18	京都府/京丹後市	琴引浜に関する啓発・調査・拠点施設整備(全国鳴き砂ネットワーク代表、はだしのコンサート)、美しいふるさと条例
19	兵庫県/加美町	特産品「杉原紙」を生かしたまちづくり(和紙のルーツ「杉原紙」発祥地において復活・保存)
20	兵庫県/生野町	地域づくり生野塾(行政・住民協働の町総合計画策定・実行に住民と町職員がチームを組んで取り組む。)
21	兵庫県/神戸市 御蔵通5・6丁目 まちづくり協議会	ボランティアと地域住民の連携による震災対応と復興への取り組み
22	奈良県/吉野町	吉野曼茶羅まちづくり会議(行政・住民のパートナーシップのまちづくりとして町民約100名を公募)紙芝居や絵本の聞き読みを中心としたおはなし会
中国ブロック		
23	鳥取県/智頭町	行政に頼らない村づくり「日本1/0(ゼロ分のイチ)村おこし運動」(地域資源の掘り起こし)
24	鳥取県/西伯町	住民参画で介護保険制度に対応するため「いきいきまちづくり委員会」(通称100人委員会)設置
25	岡山県/新庄村	音風景フェスタinメルヘンの里新庄、出雲街道新庄宿町づくりの会
26	岡山県/勝山町	まちなみ保存地区整備事業(住民の意識も啓発、行政主導から住民主導への地域家政科事業への展開)
27	広島県/大朝町	生活環境美化(環境美化条例、まちづくり景観条例、地区ごとに環境美化運動)

出展番号	所在地	事業内容	
四国ブロック			
28	徳島県/小松島市	史実・伝説を活用・義経夢想祭、義経太鼓・金長太鼓、プーラキラリ推進事業、阿波狸合戦講談の語り部養成塾、創作太鼓振興会、オリジナル吉本新喜劇、緑化・花あるまちづくり事業	
29	徳島県/勝浦町	勝浦町地域づくり井戸端塾(ビッグひな祭、恐竜の里、みかん祭)等盛んな住民活動	
30	高知県/高知市	小学校区単位でコミュニティ計画(コミュニティ計画策定事業、コミュニティ計画推進市民会議)	
31	愛媛県/宮窪町	水軍文化の保存・伝承、水軍レース大会、石文化運動公園の整備	
九州/沖縄ブロック			
32	福岡県/福岡市	住民参画・ユニバーサルデザインを柱として町総合計画策定	
33	熊本県/山鹿市	山鹿灯籠おどり	
34	熊本県/大津町	地域リーダーや活動組織の育成(からいも大学、ほりだし劇団、ほっとな矢護川をつくる会等)	
35	大分県/玖珠町	童話の里のまちづくり(日本童話祭、童話の里生き活き活動)	
36	宮崎県/西都市	古墳まつり(神話を活用)	
37	宮崎県/延岡市	延岡藩主の能面を活かした歴史のまちづくり	
福井市コーナー			
38	茨城県/結城市	友好都市	
39	熊本県/熊本市	姉妹都市	
40	福井県/美山町	近隣町村	
41	福井県/越廼村	近隣町村	
42	福井県/清水町	近隣町村	
43	福井/福井中央郵便局	福井産土産品ゆうパック・北陸のふるさと小包・切手はがきの販売・北陸限定レターセット販売	
44	福井/小大黒屋商店	ろうそくの絵づけ実演・体験および販売	
45	福井/福井竹芸尾崎欽一工芸	竹細工の実演および体験	
食道街参加			
46	福井市	越前そば名店会	おろしそば
47	福井市	ヨーロッパ軒総本店	ソースカツ丼
48	高知県	須崎鍋焼きラーメンプロジェクト	須崎名物・鍋焼きラーメン
49	沖縄県	沖縄生麺協同組合	沖縄そば・ソーキそば
50	愛知県	山本屋総本店	味噌煮込みうどん
51	広島県	オタフクソース	広島お好み焼き
52	岩手県	東家本店	わんこそば
53	静岡県	富士宮やきそば学会	富士宮やきそば
54	秋田県	鷹巣町物産協会	きりたんぼ
55	熊本県	熊本市観光物産課	からしれんこん・馬刺
56	福井市	PARADIS	北海道産じゃがバター・フライドポテト・アイス・デポジット飲料
物産・水産・農産・駅弁販売			
57	駅弁の番匠	各地の駅弁販売	
58	矢部海商	マグロの解体・鮮魚販売	
59	ますよね	かに製品の販売	
60	越前水産	三国産の魚介類・へしこ販売	
61	川本昆布食品	昆布漉き実演・昆布販売	
62	スギヨ	練り製品の販売	
63	真栄青果	果物野菜の販売	
64	タケフナイフビレッジ	越前打刃物の研ぎ実演・販売	
65	越前水産	焼きさば寿司・笹寿司販売	
66	松原産業	発送用の土産箱販売	



彩風ステージ① 10/9(土)

産業会館1号館 彩風ステージ

- 10:00 オープニングセレモニー
- 10:40 歓迎太鼓 鼓太郎
- 11:00 特産物が当たるビンゴ大会
- 11:30 麒麟獅子舞(鳥取県智頭町)
- 11:50 阿波狸合戦講談(徳島県小松島市)
- 12:15 インフォメーション
- 12:20 デカレンジャーショー
- 13:00 鼓太郎
- 13:30 まちづくりクイズ
- 13:45 馬鹿ばやし
- 14:10 麒麟獅子舞(鳥取県智頭町)
- 14:30 阿波狸合戦講談(徳島県小松島市)
- 14:50 能島水軍太鼓(愛媛県宮窪町)
- 15:10 お手玉演舞(徳島県勝浦町)
- 15:30 獅子舞(熊本県熊本市)
- 15:50 越中おわら風の盆(富山県八尾町)
- 16:20 デカレンジャーショー



県指定無形民俗文化財 馬鹿ばやし(福井市)



歴代福井藩主の祈願所であった火の神がまつられている火産(ほむすび)神社で、5月24日に行われる300年の歴史を誇る郷土芸能。能面や狂言面など37の面があり、ユーモラスな動作で太鼓を打ち鳴らし笑いを誘う。昭和37年に福井県の文化財として指定された。

彩風ステージ② 10/10(日)

産業会館1号館 彩風ステージ

- 10:30 ちびっこダンスショー
- 10:50 獅子舞(熊本市)
- 11:10 お手玉演舞(徳島県勝浦町)
- 11:30 城端むぎや祭り(富山県城端町)
- 12:00 アンパンマンショー
- 12:40 山鹿灯籠踊り(熊本県山鹿市)
- 13:00 環境演劇「元気、元気なエコ家族」
- 13:30 義経太鼓・金長太鼓(徳島県小松島市)
- 13:50 ちびっこダンスショー
- 14:10 城端むぎや祭り(富山県城端町)
- 14:30 アンパンマンショー
- 15:00 インフォメーション(エンディング)
- 15:10 子どもまちづくりメッセージ
- 15:20 参加団体メッセージ
- 15:30 まちづくり提言
- 15:45 特産物が当たるビンゴ大会



ラジオ生放送 10/9(土) 13:00~16:00

タイトル 大和田ラジオ本舗 土曜スペシャル
「住みたくなるまちづくり全国交流大会・まちづくりメッセ」

- 内容 ● 地区のまちづくり関係者の電話生出演 ● 市長の生出演
- 会場に参加・出展された団体の紹介 ● 食道街からの味なメッセージ
- 来場者の声インタビュー ● まちづくり交流会(地域間交流)
- まちづくりメッセの紹介 ● 大会PR
- 会場内にサテライトスタジオを設置



山鹿灯籠まつり 熊本県山鹿市

約1300年前景行天皇筑紫巡行の際、山鹿の民が松明によって奉迎したのが起源のひとつとされています。松明を神社に奉納する習わしが、室町時代を境に和紙の伝統工芸山鹿灯籠献灯に姿を変え、現在に至っています。



麒麟獅子舞 鳥取県智頭町

江戸時代に鳥取藩主池田光仲公が始めたといわれるこの舞は因幡地方独特の古い原型を伝えています。鳥取県の無形民俗文化財に指定されており、約350年という伝統の舞が受け継がれています。麒麟獅子という頭をかむった獅子舞です。



能島水軍太鼓 愛媛県宮窪町

戦国乱世、海の大者として勇名を馳せ、瀬戸内海に君臨・伊予村上水軍の史実に基づき太鼓にのせて伝承しているのが水軍太鼓です。船出・合戦・勝どき・天下泰平・踊り太鼓からなる組曲。勇敢いき、戦った心意気として心情を表現しています。



城端むぎや祭り 富山県城端町

約800年前平家の落人が都を追われて各地に離散した時、五箇山にも住み着いた。麦屋節はその落人たちが都での往時を偲んで唄い踊ったのが始まりとされています。哀調を帯びた旋律と風格のある踊りは五箇山地方一帯に広まり、富山県の代表的な民謡のひとつとして全国に著名です。



お手玉演舞 徳島県勝浦町

日本では奈良時代から国からお手玉あそびが伝わったといわれています。法隆寺の宝物に石名取玉というものが、16個の水晶玉で、聖徳太子がお手玉遊びに使われたのではといわれています。江戸時代から明治時代にかけての座布団型のお手玉になりました。



義経太鼓・金長太鼓 徳島県小松島市

義経の上陸伝説・歴史・民話を主題にした和太鼓曲義経太鼓・金長太鼓の創作太鼓。手持曲は徳島出身の世界的なオペラ作曲家 三木稔さんの作曲。源義経の行軍の様子をイメージしています。小松島に伝わる金長をイメージの金長太鼓は陽気な、愉快な、明るい太鼓です。



越中八尾 おわら風の盆 富山県八尾町

300年以上の歴史をもつ越中八尾おわら風の盆は、三味線と胡弓、太鼓などの音につられ哀調を帯びた艶やかな唄声にあわせて、粋な法被姿や編み笠の浴衣姿で、優雅、洗練された繰り広げる祭りです。



講談・阿波狸合戦 徳島県小松島市

江戸時代の末頃、日会野に金長という狸がすんでいて、彼の生き様を伝える阿波狸合戦・金長狸伝説という講談により現在も語り継がれています。



獅子舞 熊本県熊本市

新町獅子・熊本城築城とともに誕生したと言われている。江戸時代の新町獅子は当時の絵巻物に中国風のデザインと服装が観られ現在の女の子の唐人姿が残っています。新町獅子には天拝と牡丹の舞があります。天拝は江戸時代から、牡丹の舞は明治期に完成され現在に至っています。



食道街



わんこそば 東家本店
盛岡そば処東家は創業が明治40年。親しみやすい庶民のそば料理店として、南部御城下の下町情緒を色濃く残す中ノ橋通りに三代営業を続けてきました。副産料理ともそば料理にも自慢の腕をふるって、その伝統は、宴会料理やわんこそばに存分に生かされています。



味噌煮込みうどん 山本屋総本家
名古屋の名物といえば誰もがこたえなのが味噌煮込みうどん。1925年、創業当時の味を守り続けている老舗。八丁味噌をベースにかつおだしを効かせたコクのあるつゆが特徴。塩を使わずに作る手打ち麺を直接土鍋に入れてじっくり煮込む。病みつきになる逸品。



須崎鍋焼きラーメンプロジェクトX
鍋焼きといえば、普通はうどん。高知県の中央部にある須崎市では、鍋焼きラーメンがブイラーです。昔からお店や家庭の食卓で、若男女に愛され、県内でも知る人ぞ知る存在の須崎名物・鍋焼きラーメン。地域活性化の起爆剤にしようと鍋焼きラーメンプロジェクトXが全国に売り出そうと動き出しました。



沖縄そば 沖縄生麺協同組合
沖縄でそばといえば沖縄そばのことを指し、蕎麦は日本そばと和そばとして区別しています。ソーキそば・てびちそばなども沖縄そばのバリエーションのひとつで普通の沖縄そばにソーキ(骨付きアバラ肉)やてびち(とん足)などがトッピングされたものをいいます。10月17日は沖縄そばの日



富士宮やきそば学会
富士宮やきそばの特徴は、コシの強い麺と、ラードを絞った後の肉かすを加える独特の味付けで戦後の復興期洋食屋さんと呼ばれていた。中心市街地活性化の市民ワークショップに集まった参加者により、まちおこしの一環として、富士宮やきそば学会が誕生。マスコミに取り上げられ大ブレイク。



広島お好み焼き オタフクソース
お好み焼きのソースといえばオタフクソース。スローガンは「一緒がおいしいね。団らん応援します。」今回はオタフクソース自慢の宣伝車で産業会館に登場します。一人より二人たくさん仲間煮のペースで食べてください。お好み焼きの小冊子差し上げます。



きりたんぼ 秋田県鷹巣町物産協会
きりたんぼの宣伝販売。秋田の米や声の響く高い比内地鶏など高品質な食材を使って調理いたします。軽く磨り潰したご飯を杉串に巻きつけ火で焼き上げ白飯のスープときのこと・せりなどの鍋で食べるの飯です。この機会に是非ご賞味ください



からしれんこん 熊本県観光物産課
からしれんこん・馬刺しの販売。本場熊本の味をお届けします。サクッとした連根の歯ざわりとびりっとした辛子のきいたあげたてのからしれんこん。熊本で生まれた400年の歴史の味を堪能してください。馬刺しは最高の酒の肴・逸品です。



北海道産じゃがバター・フライドポテトアイス・デボジット飲料 PARADIS
福井市内のカフェ＆ダイニングバーのお店です。大和田のOPMビルにて若者中心に注目されているカフェです。イベントでの協賛として参加。初めてのデボジット・リユースカップを使用した販売に努めます。



ソースカツ丼 ヨーロッパ軒総本店
創業1913年。日本にかつ丼の歴史の夜明けを告げたヨーロッパ軒の初代店主・高島増太郎氏。門外不出の特製ソースで味付けした素晴らしいソースカツ丼は、福井でしか味わえない名物料理として全国に知られています。



越前おろしそば名店会
素朴な味のおろしそば。かつて昭和天皇がご来福になったおろしそば。越前で食べたおろしそばはおいしかった。側近にお話されたことからなづけられた。福井名物・越前おろしそば。慶長6年、武生市に京都から城主としてきた本多富正公がそば・金子権左衛門を同行し、今のような細状に切り筋をたばに、大根おろしを添えて食べたのがルーツとされています。

「NPOフォーラム in 福井」開催報告

1 趣旨

協働によるまちづくりをめざす関係者が、地域との連携やNPOとの協働を進めるために、全国各地の実践事例を交えて討論した。

2 テーマ

「協働のまちづくりにおける地域の役割、そしてNPOの役割」

3 期日

平成16年10月9日(土)～10日(日)
(大会2日目～3日目)

4 会場

フェニックス・プラザ

5 主催

NPOフォーラムin福井開催委員会、福井県、福井市

6 参加者

全国・県内のNPO関係者、自治体職員、一般市民等
1,137人

7 参加費

(資料費) 両日1,500円(1日1,000円) 学生500円
(NPOメッセ出展費) 1,000円

8 事業概要

オープニング、鼎談

日時 10月9日(土) 13:00～15:00
場所 フェニックス・プラザ 小ホール
参加者 350人

内容 オープニング 中学生による構成詩
子どもによる子どものための子ども権利条約から
「みんながしあわせに生きるために」

鼎談「協働のまちづくりにおける地域の役割、NPOの役割」

揚原安彦氏((社)日本青年会議所 直前会頭/(社)福井青年会議所 特別顧問)
加藤哲夫氏(NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター代表理事)
早瀬 昇氏(社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事・事務局長)



セミナー&分科会

日時 10月9日(土) 15:15～17:30
10日(日) 9:30～14:45
場所 フェニックス・プラザ 会議室等
参加者 446人(9日252人、10日194人)

内容 セミナー
「はやわかり、納得!!」NPO基礎講座

分科会
協働条例や指針の運用と評価システム / 中間支援組織とは何か? / コミュニティビジネスと事業型NPO / 変革の時代に向かう地域コミュニティ / NPOを元気にするリーダーの存在とは / 若力(ばかちから)～若者と市民活動、NPO



交流会

日時 10月9日(土) 18:00～19:30
場所 フェニックス・プラザ 大ホール
参加者 約100人
次第 開会あいさつ 開催委員会 岸田会長
歓迎あいさつ 西川知事
分科会報告を織り込みつつ懇談
終宴あいさつ 奈良副市長
会費 3,000円



NPOメッセ「コラボしよう! 2Days」

日時 10月9日(土) 13:00～10日(日) 16:00
場所 フェニックス・プラザ 大ホール
参加者 250人(出展39団体、44ブース)
内容 参加団体による活動紹介、NPO法人設立相談、会計・税務相談、NPO情報コーナー、書籍販売、オープンカフェ

クロージング

日時 10月10日(日) 15:00～16:00
場所 フェニックス・プラザ 小ホール
参加者 約250人
内容 分科会報告、全体会



9 運営関係者

講師・事例報告者 39人
開催委員会・市職員 52人

10 事業の総括(フォーラムの成果等)

「官から民へ」時代は動き始めています。行政も市民もこれまでの価値観から社会の新しい仕組みや価値の創造を探索していくことが必要でしょう。そのために、行政や市民という立場を超えて一人ひとりができること、その課題を結集しての「NPOフォーラムin福井」でした。



オープニングでの中学生のメッセージは「子どもがしあわせに生きられる社会は、きっと世界中の誰もがしあわせに生きられる社会」。この永遠のテーマのために、私たちは何ができるのかを確かめ、展望し、明日からの実践のエネルギーを充電したフォーラムだったのではないのでしょうか。

鼎談は、地域とNPO、そして行政の役割について多くの示唆にあふれ、分科会は熱い論議の場となりました。NPOが社会から信頼され、あてにされる存在であるためにも積極的な情報公開が必要であると各分科会共通に語られています。若者たちの分科会で提案されたイベントは、福井のまちで芽吹き始め、参加したNPO団体から「さっそく組織の見直しにかかった」との報も届いています。NPO活動を見て、聞いて、体験する「NPOメッセ」にも多くの来場者がありました。

全国規模のフォーラムに県と市が負担金を出し、行政の外に事務局機能を置くという福井では、初めてづくしのフォーラムになりました。準備は、すべて市民と行政が対等にかかわり、それぞれ得意な分野での協働体制を組むことで進められました。

「どんどん増える、だんだん楽しくなる」を合言葉に、一度でも顔を出した人は、総勢46名、実働30名といった開催委員会でしたが、福井の中にこんな人!というネットワークが広がり出しています。何より、このフォーラムに全国各地からそして県内から参加していただいた方々に心から感謝申し上げますとともに、「またいつかどこかで!」お会いできることを楽しみにしています。

2004年12月

NPOフォーラムin福井開催委員会 会長 岸田美枝子

てい だん 鼎 談 「協働のまちづくりにおける地域の役割、NPOの役割」

鼎談者 鼎談者 揚原安彦氏（(社)日本青年会議所直前会頭 / (社)福井青年会議所特別顧問）
加藤哲夫氏（(特)せんだい・みやぎNPOセンター代表理事）
早瀬 昇氏（社会福祉法人大阪ボランティア協会 理事・事務局長）

まとめ

[地域コミュニティとNPO]

地方分権、市町村合併等により、どのように市民が力をつけて、住民自治の領域をどうやって拡大していくか、さらに、「協働」が地域の問題を解決する有効な手段となり得るか、といったことが大きな問題になっている。

今、地域のコミュニティ組織とNPOが相互理解をしにくいという話をよく聞く。地縁型のコミュニティは基本的に共同体であるのに対し、NPOは“テーマ型コミュニティ”である。コミュニティにある少数のニーズをつなぎ合わせて社会の課題にしていくという特徴を持っている。地域コミュニティは、存在していることに意味があるのに対し、NPOは何か行動することに価値がある。同じ県の中でも地域差があり、地縁型組織や共同体コミュニティが強い地域と、新たなコミュニティとしてのNPO等の役割が強い地域とがある。お互いの違いを乗り越え、双方からリーダーが出てくるのが望ましい。その人たちが地域とNPOをつなぐパイプ役になれるかもしれない。

公民館やコミュニティセンターを運営していくに当たり、NPOの活動をしている人が町内会の人と運営委員会をつくり施設管理しているケースも出てきている。

市民参加型で運営されている公共施設は、地縁型の組織のあり方やまちづくりなど、地域の課題を話し合う「場」である。こうした施設に活気が戻ること、市民の交流の「場」が、市民活動を支援する「機能」を持つことになる。地域のセーフティネットの役割を果たすことになるのだ。

[NPOと行政]

社会で一番大きな助け合いの組織は行政である。

税収が増えないからと民営化が必要だとか、経費削減のために協働を、という声も出ている。しかし、10年後、20年後...と長期的な視点でやらなきゃいけないことを今やることのできるのも行政だ。効率を求めれば、やらなくなる方向へ進んでしまう。公共の仕事の一番重要なことは、その仕事は単なるビジネスの考え方ではできない部分がたくさん潜んでおり、民営化がすべてではない、ということである。そこで、真の意味の協働が生まれなければならない。

多くの公務員が、ボランティアを誤解しており、具体的な市民活動の組織やNPO・NGOと呼ばれている組織をほとんど知らないという現実がある。さらに、ボランティアは、お金をもらわずに社会に奉仕する奇人な人という思いこみも根強い。

その一方で、NPOの側も、活動の“思い”は語るが“お金”は語らない。問題を解決するための行動には、必然的に費用はかかるものであり、そのことは社会的に認知されなければならない。市民活動は、社会奉仕ではなく、“社会に問題があるから見て見ぬふりができない”、“問題を解決したい”と思っている人という定義なのだ。

市民活動やボランティアにとって、「動機主義」や「純粋主義」はよくない。役に立つことが大事であって、純粋な部分とそうでないところがあってよい。大事なのは、“ボランティアの押し付け”などの感覚を捨て、相手はどう見ているかという部分を自覚した上で、社会にNPOの活動をどう見せていくか、のための方法論だ。そのために、NPOは徹底的なアカウンタビリティを果たし社会の信頼を得ていくことが必要である。そうしたNPOを支える中間支援組織は、“巨大な社会教育機関”だといっても過言ではない。NPOの信頼性、情報の提供や企業との提携、資金・資材の確保や支援など市民社会を発展させるためにも今後ますますその役割が重要になるだろう。



セミナー & 分科会 （クロージングでの講師報告を要約）

セミナー 「はやり、納得!!」NPO基礎講座

講師 青海 康男氏（(特)いしかわ市民活動ネットワークセンター事務局長）
赤須 治郎氏（同上理事・赤須企画事務所代表）

まとめ

1日目は、組織を構成する人にまつわる様々なトラブルやその原因について整理して、理解していただき、2日目は、マネジメント講座をやった。マネジメントという理論が多いので、「NPO運営のコツ」をテレビの視聴者なんでも相談のように、現場にまつわる様々なトラブルを一問一答形式でやった。

「話し合いがまとまらなくて困っている」、「働く人がいつも同じ」、「古いメンバーがずっといて困る」、「第2世代の若い人が育つためには、第1世代の人たちは何を考えなければいけないか?」、「活動がマンネリ」、「会員が増えない、お金が増えない」というような組織運営、人材の課題についてマネジメントの切り口で解決の方向を考えた。こうして初めて謎を解き明かしてみても、「NPO活動のリセットをしよう!」あるいは、「そうだ! こういった所に注意して、組織をつくって行こう!」みたいなスタートが切られたのではないかと。



分科会 「協働条例や協働の運用と評価システム」

講師 中川 幾郎氏（帝塚山大学大学院法政策研究科教授）
講師 松本 美穂氏（(特)コミュニティシンクタンク「評価みえ」常務理事）
事例報告 福井県、福井市、神奈川県大和市、埼玉県志木市

まとめ

事例報告で印象的だったこと。まず、福井県の協働の指針は今日のトップレベルの内容で、協働の関係における行政の責任領域、市民の責任領域、その中間領域の3つの領域に対応した予算支出上の考え方、事業の協働形態が見事に整理され、非常にすっきりとしている。

福井市の条例は、市民との協働関係の中で策定され、プロセスにおける公開と協働を実行していることに加え、特筆すべきは、これを推進していくため庁内を横につなぐ組織を作っていること。これは本気だと感じたし、スタートであって頂点ではないのだということが、よく認識されている。

大和市は、協働事業提案制度の過程を徹底して公開し、行政と市民とが一緒になって調整までやっちゃおうという、非常にユニークな取り組み。運用のプロセスでも大変緻密で配慮の行き届いたやり方をしている。

共通しているのは、プロセスの共有・公開・積み重ねを、まさしく協働の財産としていることだ。

2日目の報告の、埼玉県志木市は、「行政パートナー制度」で、行政の業務を市民に委託しちゃう、最後は市長も廃止してもいい、くらいのことをおっしゃってる。すでに4つの業務が市民の手に移っているが、行政として、市民に渡せるものと、できないものは大体半々くらいで、その交通整理もしている。今後ますます注目されると思う。

「協働評価の意義と実際」というワークショップも試みた。現状から評価指標をつくる手法は、短時間で消化不良の面もあったが、理論としてはわかったと思う。

協働というのは、単なる協力じゃない。協働を実践するためには行政も市民も自己変革せざるを得ない。そして、何のために協働するかというと、コストダウンでも、ボランティアへの安上がり委託でも、或いはNPOがニュービジネスで成長していった地域独占をするためでもない。異なる主体が手を結んで行う地域自治の自治体改革の「共同闘争関係」を結ぶことだと定義したい。



分科会 「中間支援組織とは何か」

講師 早瀬 昇氏（社会福祉法人大阪ボランティア協会理事・事務局長）
事例報告 (特) 江市民活動交流センター、(特)くびき野NPOサポートセンター

まとめ

NPO・市民活動のためのセンターをつくる、というと、「NPOのために」「NPOがもっと元気になるために」というイメージに陥りやすいが、そうではない。NPOセンターが、NPOのためだけにあるなら、その組織はた

ぶん役に立たない。「中間支援組織」は、NPOと、NPOを応援したい・参加したい人たち、両方のための組織だ。NPOの利益だけを考えてはいけな
ない。NPOのことも考えるけども、NPOを支えたい人のことも考える。中間
に立ってサポートする。かっこよく言うと、「市民社会をつくるための組織」
だ。

現実的には大変だ。NPOのことだけでなく、行政の立場も、企業の立場も、
学校の事情もわかる、それぞれが今何をしているかわかってないといけ
ない、その辺の感覚が大切だ。

江市と新潟県上越市のサポートセンターの事例報告の後、「次なる中間支援組織のアクションプランを考えよ
う」というワークショップをやり、SWOT分析（強み・弱み・機会・脅威）という4つの視点で団体をチェッ
クし分析してみた。

中間支援組織は、そこに行っている人々な人たちと出会う、元気になるようなところでないといけ
ない。ポイントはそこで働いている人自身が元気であること、市民活動のしんどさも面白さも知っていることが
すごく大切だ。そのための仕掛けとして、自分のする仕事を自分で決められる、一種のワーカーズコレクティブ
みたいな組織が望ましい。



分科会 「コミュニティビジネスと事業型NPO」

講師 相川 康子氏（神戸新聞社論説委員・(特)NPO政策研究所理事）

事例報告 輪島商工会議所、(特)田んぼの学校越前大野、(特)ハートライセンス

まとめ

基調講演の後、輪島市、大野市、福井市での取組みの事例報告を受けた。田
原町商店街で大学生が運営するまちづくり拠点も覗いてきた。

講演では、コミュニティビジネスの発祥の地イギリスの事例や、今、日本で
非常にコミュニティビジネスが注目される背景として、グローバリズムの影響
や地域の伝統的な地縁組織の機能不全があること。期待される効果としては、
地域の問題を掘り起こして解決したり、雇用を生み出したりする直接効果の外、
住民がその地域に住んでよかったと感じたり、或いは、「自信」とか「運営能
力」とかをエンパワーした住民がその地域にたくさん生まれることで、災害な
どいろんな地域課題に対しての力がつく、そういう間接効果も見なければいけ
ない。

課題が3つあると思う。1つは、NPOの清貧・自己犠牲イメージによって、ビジネスの事業体としての展開に
つながらないこと。2つめは、地域住民がコミュニティの問題点を十分に認識していないし、認めたがらないこと。
3つめには、NPO法にいう「不特定多数の利益」には、共益の概念は含まれないが、コミュニティビジネスとい
うのは、少々高くてもその地域の人が提供するサービスを買うという点では、むしろえこひいきの共益が発達し
ていないと成り立たない。ここを何とかしないとけない。

コミュニティビジネスの定義を聞かれて、私は「ない」と答えた。というのは、NPOでも、有限会社でも、事
業協同組合でもいいし、課題となる分野も福祉、まちおこし、経済活動など多様で、地域の状況も様々。その
地域の固有の問題を解決する手法がコミュニティビジネスだ。そのさい、地域の情報を目に見える形にして、
様々な人が関わりながら「地域さがし」をしていく必要がある。



分科会 「変革の時代に向かう地域コミュニティ」

講師 佐藤 一子氏（東京大学大学院教育学研究科教授）

事例報告 (特)グラウンドワーク三島、みやま未来塾、福井市社南公民館

まとめ

今、NPO法人は全国で17000で、実は日本の公民館数が18000だ。
公民館は地域密着型の活動ができる、ということを専売特許のように言われて
きたが、いよいよNPOにも、地域課題に切り結んだり、地元の地域を変えて
いくということ自体を目標にした活動が非常に定着してきた。

公民館活動とNPOの活動は、どのように協働したり、反発したり、或いはお
互いの不信があったり、どのような問題があるのか、具体的に研究者・
NPO・地域住民各立場の人が集まって議論できたのが特徴だったと思う。福
井ならではの掘り起こしをしていただき、他の地域でなかった新しい展開にさ
しかかったのではないか。



事例報告の中では、地域を変える戦略的なものをきちっと提起していくのが、NPOの役割・責任ではないかと
いう提起があり、とても刺激的だった。

今後、自治体の大規模合併の中で、住民が地域を運営していく能力を回復していかなければいけない。「地域と
いうものは協力すれば楽しい場所」ということを目標としながら、どう住民全体が参加できる活動を生み出して
いくのか、改めて住民自身に問われている。そういう方向に向けて、NPOがより重層的で、地域に入り込んだ活
動を展開していくことが課題である。

分科会 「NPOを元気にするリーダーの存在とは」

講師 筒井 のり子（龍谷大学社会学部教授、(特)日本ボランティア・コーディネーター協会代表理事）

事例報告 (特)日吉台の福祉を語る会あじさいくらぶ、(特)コム・サポート・プロジェクト

まとめ

滋賀県の津市の「日吉台の福祉を語る会あじさいくらぶ」は、テーマ型コ
ミュニティと地域自治組織を合わせたような団体だ。やりたい人が集まってい
るが、地域密着の活動だ。面白いのは、代表が1人と決まってないこと。場面
によって代表者が変わる、という運営によって、福祉活動・まちづくり活動
をしている。

一方、福井市内の「コム・サポート・プロジェクト」には、障害者の自立生
活センターの運営と、障害を持つ方自身の運動的な団体として始まった「あい
じつ」というグループの両方の話をしていただいた。運動団体が運動として拓
けていく側面と、制度にのっとった事業として運営していく側面、すなわち運動の側面と事業の側面の葛藤、つ
まり、組織化することのメリット・デメリット、役割分担することの是非、そんな課題を投げかけられた。

2日目は、ワークショップ。まず「NPOが元気な状態とは？」を出し合ったが、これは、NPOとは何かと問う
ことに等しい。目的が明確になっているとか、組織内のコミュニケーションとか、活動基盤、外部とのつながりが
常にあるとか、要はNPOそのもの論。次に「どうしたら元気なNPOになるの？」というワークショップ。そこ
では、会議の持ち方の工夫、会報・情報発信、定款上の工夫など、かなり具体的アイデアが出た。第3弾「リー
ダーとしての役割・働きかけ」では、必ずしも一人とは限らないリーダーの関わり方について話し合った。「リー
ダーは希望の集配業者」... 希望を集めてみんなに配る、プラスしんどいことをまず受け止める、ずっと受け止め
続けるのでなくみんなに配って、みんなで解決していく、といった意見が出た。



分科会 「^{ばかぢから}若力~若者と市民活動、NPO」

事例報告 「とやまにフットサルリーグをつくろう」、インターナショナルクラブ、(特)花火師&雅女衆、
(特)横浜にLRTを走らせる会、明治学院大学ボランティアセンター

まとめ

若力分科会は大変白熱した。全国から若者を集めて、年齢も上から下まで幅
のある「若者」だった。足羽河原、福井駅前、田原町商店街の白いキャンパス
を用意し、7つのグループに分かれて、ワークショップを行った。

もう若力爆発でキャンパスに書きなぐってもらって、講評の方は足羽河原、
福井駅前、田原町商店街から2人ずつ来ていただいたが、何か持って帰るもの
があったようで、すごく満足して帰っていただいた。

県外から来た方はお寺に宿泊し、遊ぶのも、一生懸命やるのも本当に命がけ
くらいの感じでがんばっていた。

ワークショップは、昼食抜きで熱心に行っているところもあり、すごく立派な分科会になった。参加者依存型で
進行したが、他の分科会に負けないと自信を持って言える。

最初は台風の影響で電車が止まってしまい、人は来られないし、病院へ行く人もいた。無事終了できたのは、
なによりも参加者とスタッフの協力があってから。ありがとうございました。



「エコイベント」実施報告

1 趣 旨

循環型社会を目指し、「住みたくなるまちづくり全国交流大会」を、環境に配慮した「エコイベント」として取り組む。

2 経 緯

これまでのイベントは環境への負荷を与えがちであったが、今後は、イベント本来の楽しさを損なわずに、環境に配慮していくため、多方面から環境負荷を低減させる取り組み、またどのような規模でも無理なく継続できる取り組みのノウハウが積み上げられていく必要があることから、福井市のイベントとしては初めて「エコイベント」と位置づけて取り組むこととなった。

3 期 日

平成16年10月8日(金)～10日(日)

4 会 場

「住みたくなるまちづくり全国交流大会」全会場

5 実践内容

ごみ

リユースカップにデポジット制度の導入

会 場 産業会館「全国まちづくり食道街」

内 容 飲料コーナーでは、リユースカップを使用

飲料価格に「デポジット料金(100円=カップ預り金)」を加算
飲料後にカップを返却すると、「デポジット料金」を返還

利用数 約2,000回(9日～10日)

生ごみの資源化

会 場 産業会館

内 容 車載型生ごみ処理装置により資源化

分別ごみ箱設置

会 場 産業会館

内 容 分別ごみ箱を設置

来場者の協力により、ごみを分別

交 通

シャトルバスの運行

区 間 JR 福井駅東口 産業会館

内 容 30分間隔で運行

アイドリングストップ厳守

利用数 489人(9日～10日)

シャトル電車の運行

区 間 えちぜん鉄道…… 福井 田原町

福井鉄道…… 福井駅前 田原町

内 容 フェニックス・プラザへの往復は既存鉄道

(えちぜん鉄道・福井鉄道)を利用

大会参加者には、無料乗車券を発行

利用数 393人(8日～10日)



カップを返却すると
100円返還



分別ごみ箱(プラ、
生ごみ、割箸等)



シャトル電車
(えちぜん鉄道)

エコカー(環境に優しい自動車)

会 場 産業会館

内 容 エコカー(4台)を展示

電気自動車(トヨタRV-4)

ハイブリッド車(トヨタプリウス 新型)

”(” 旧型)

天然ガス車 (日産ADバン)

啓 発

広報活動の中での啓発

内 容 テレビ、ポスター、リーフレット等

(例文)「シャトルバス・電車の利用をお願いします。」

「マイバッグの利用をお願いします。」等

会場(全国まちづくりメッセ)での啓発

内 容 エコパネル展示

エコに関するパネルを展示

エコスタッフ(エコシャツ着用)

部門別(清掃、洗浄、回収等)にエコスタッフを配置

環境演劇の上演

「元気、元気なエコ家族」と題して、環境演劇を上演

上記以外に、各地区交流会場やフェニックス・プラザにおいても「エコイベント」に取り組みました。

環境に優しい
エコカー



エコパネルで来場者
に啓発

6 事業の総括



環境演劇の上演

福井市として初めて「エコイベント」と位置づけて取り組んだ本大会では、デポジット制度の導入やシャトルバス・電車の活用、エコスタッフ活動や環境演劇の上演、また、各地区の交流事業においても、環境に配慮した様々な取り組みを実施しました。

デポジットで使用した
カップは洗浄後に
再使用

その結果、直接的な環境負荷の低減(直接効果)とともに、参加者の意識高揚を図ることによって、市民全体の環境に対する意識醸成(間接効果)の一端を担うことができ、本市のイメージアップにもつながりました。イベント本来の楽しさも損なわずに、これらの成果をあげることができたことは、今後のモデルになると考えています。





「住みたくなるまちづくり全国交流大会」 開催事業の経過

市民自らの手による大会をめざし、市内全43地区から選出された企画委員会組織の結成。

人口規模に偏りのないよう配慮して、委員会に3部会を設置。そのうち12地区の代表から成る「企画デザイナー部会」において、本交流大会の地域間交流事業について企画。

平成15年8月には、本交流大会を市民総参加の事業とすべく、自治会をはじめ、公民館や地域づくりに関わる各種団体による実行委員会を設立。

平成14年	5/17~24	夢プラン会長・事務局長 ブロック別会議 市長発言を受け、全国交流大会を提案。承諾
	6月~9月	(仮称)まちづくり研究会議準備委員会(第1回・第2回) 平成16年以降のまちづくりについて。「全国大会」の組織作りを協議、実行組織の設立承認
	7月~8月	各地区夢プラン実行委員会へのアンケート実施 各地区から代表者を選出し、大会を企画
	10/24~	企画委員会設立 3部会設定 自らの手による「全国大会」の計画を確認 「全国大会」の内容など具体的項目の検討 「1対1の交流を基本」に「本音の交流」を図る
	11/1	第2回企画デザイナー会議 開催趣旨・事業計画(案)について事務局のたたき台を基に議論
	11月	地区の情報収集アンケート実施(会長・企画委員宛) 各地区の「交流事業の核」について
平成15年	2/7	第3回企画デザイナー会議 企画委員会会議会則(案)承認、今後の議論の方向性を決定
	2/16	第4回企画デザイナー会議 大会の基本理念や位置付け、全体構成などについて検討
	2/25	各地区夢プラン会長宛 企画委員会の経過報告
	3/11	第5回企画デザイナー会議 大会での交流活動の方法・構成について検討
	3/18	第6回企画デザイナー会議 大会の全体スケジュール、構成について検討。活性化フォーラムは地域活性化センターが主催
	4/1	第7回企画デザイナー会議 企画委員会の予算執行、交流の目的と方法について検討 企画委員会から「全国大会」企画に対し、福井市の支援を要請する。 以後、市と企画委員会の協働による「全国大会」を企画。 行政は公的機関への交渉担当
	4/10	第4回~7回の企画デザイナー会議まとめを各地区夢プラン会長宛に送付
	4/15	第8回企画デザイナー会議 大会の構成案について検討
	4/22	第9回企画デザイナー会議 大会の構成案について検討。各地区の交流相手先・交流形態に対する意向を把握すること
	5/2	第10回企画デザイナー会議 大会の全体構成および会長・事務局長会議について検討
	5/15	夢プラン会長・事務局長会議 企画デザイナー会議で検討した「全国大会」概要を了承 各地区交流活動プラン等のアンケート(夢プラン会長宛)
	6/6	第11回企画デザイナー会議 市内近隣地域ごと及び交流テーマ別に各地区の意向を聞くことを決定

平成15年	6/17	第12回企画デザイナー会議 ブロック別説明会の内容について確認、実行委員会委員・役員の選定について
	6/19~7月末	ブロック別会議・テーマ別会議 交流の形態やテーマについて、各地区がブロック別・テーマ別に議論
	~6月	総務省へ事業支援要請
	7/7	実行委員会設立に向けて自治連合会会長・公民館長へ協力依頼
	8/5	住みたくなるまちづくり全国交流大会実行委員会設立会議・第1回常任委員会 県外交流団体招致交流活動の開始(企画委員会から各地区へ支援) 各地区年度末まで交流相手先訪問・交流プラン検討
	8/20	第13回企画デザイナー会議 県外団体招致活動について議論
	8/26	複数地区共同でのグループ交流事業についてアンケート(夢プラン会長宛)・資料送付
	8/28~29	企画委員の代表による、第19回地域づくり団体全国研修交流秋田大会への参加
	9/11	「全国大会」市職員ワーキンググループ発足
	9/24	第14回企画デザイナー会議 企画委員会全体会開催の決定
10/9	企画委員全体会 ←	
10/21	「全国大会」における企画委員の役割と大会趣旨の確認(夢プラン会長宛結果報告)	
10/28	第2回常任委員会 実行委員会第1回 総会	
平成16年	1/27	第15回企画デザイナー会議 まちづくり提言への地区原則参加、交流大会当日の宿泊・移動予定の把握を決定
	2/19	第3回常任委員会
	~3月	各地区県外交流相手の確定 グループ交流活動拠点地区会議の開催各地区交流活動プラン作成予定 まちづくりメッセ業務委託のためのプレゼンテーション審査会実施
	3/31	第16回企画デザイナー会議.....企画委員会解散
	4月~	地区情報交換会 実施計画説明、助成金説明、進行状況確認、実施計画中間報告 にもとづく〔ヒヤリング〕
	5/18	第4回常任委員会
	7月~	「まちづくり10年のあゆみ」作成 交流事業助成金交付
	7/15	役員会 = 7/18 福井豪雨 =
	7/30	第2回 総会予定.....中止
	8~9月	各地区の交流事業概要がほぼ決定、まちづくり交流会(地域間交流)チラシ配布(各地区)
8/27	第2回 総会	
10/1	第3回 総会	
10/8~10	住みたくなるまちづくり全国交流大会	
10/19~	交流相手・各地区に対しアンケート実施	
12/17	第4回 総会	
~17年2月	交流大会報告書作成	



日刊県民福井 平成16年10月9日掲載



2000人参加総会開会式

新時代の「まづくり」求め 福井で全国交流スタート



「まづくり」全国交流大会の開会式

福井市で開かれた「まづくり」全国交流大会の開会式。参加者約2000人が集まり、福井市長の挨拶や、各地区の代表による発表が行われた。

朝日新聞 平成16年10月10日掲載



フォーラムの分科会

協働のまづくり議論

フォーラムでNPO、全国から

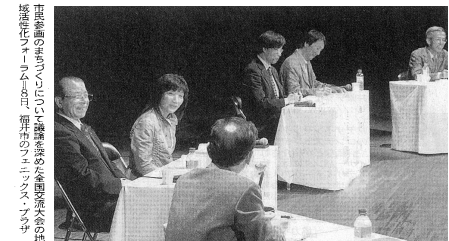
市民参加型のまちづくりを推進するNPO、全国の代表者が福井市で開かれた「まづくり」全国交流大会のフォーラムで、協働のまちづくりについて議論した。...

6分科会でも熱く「若力」と市民活動やリーダーあり方巡り

「王の舞」知って面や衣装を展示 小浜の若狭歴史民俗資料館

福井新聞 平成16年10月9日掲載

地域の担い手 福井集結



市民や有識者がフォーラム

NPO活動の拠点整備 提案

福井市で開かれた「まづくり」全国交流大会のフォーラム。市民や有識者がNPO活動の拠点整備について提案を行った。

日刊県民福井 平成16年10月10日掲載

過疎克服あの手この手

殿下、光・徳島勝浦町など

少子高齢化が進む過疎地を克服するための手立て。殿下、光、徳島勝浦町など、各地で実践されている取り組みを紹介する。



福井の伝統芸能競演

福井新聞 平成16年10月10日掲載



災害克服を地域の力で

神戸や静岡参加 シンポで「備え」

福井市で開かれた「まづくり」全国交流大会のシンポジウム。神戸や静岡からの参加者が災害克服について話し合った。

10年の成果披露

太鼓で心響き合う

日刊県民福井 平成16年10月10日掲載

全国の名物料理 集合

福井でまづくりメッセ



福井でまづくりメッセ。全国の名物料理や伝統芸能などが集まり、市民が楽しむイベントが行われた。

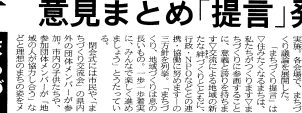
福井新聞 平成16年10月11日掲載



不死鳥福井

福井・宮ノ下広場でまつり

コスモス 濃淡鮮やか



意見まとめ「提言」発表

多彩イベントに9万人

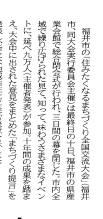
日刊県民福井 平成16年10月13日掲載



ろうそく2000本 幻想的

朝倉氏遺跡 豪雨復興へ

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。豪雨による被害を回復させるための取り組みが行われている。



朝倉氏遺跡

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

朝倉氏遺跡の復興作業が進展している。

住みたくなるまちづくり全国交流大会実行委員会 委員名列

(敬称略・順不同)

役職	氏名	地区
会長	酒井 哲夫	福井市長
副会長	加畑 一三	安居
実行委員長	奈良 一機	副市長
副実行委員長	藤田 健次	宝永
	町井 廣	旭
	坂上 泰学	湊
	山田 定次	啓蒙
常任委員 (57名)	青木 邦夫	岡保
	松浦 義廣	啓蒙
	山下 猛志	湊
	神谷 一成	殿下
	増永 弘	豊
	前田 栄治	社北
	三谷 富三	春山
	清水 庄太郎	中藤島
	柳澤 数一	森田
	西山 榮一	栗
	竹川 重弘	宮ノ下
	吉村 信吾	酒生
	海崎 満	六条
	稲津 典三	日之出
	前田 晃良	和田
	松田 典次	東藤島
	林 昭一郎	円山
	磯見 邦靖	日新
	木村 等	東安居
	野中市右門	西藤島
	前田 智晴	大安寺
	池田 英治	足羽
	多田 正弘	木田
	松山 徹広	清明
	廣瀬 則夫	社南
	深草 又栄	社西
	岩佐 満治	麻生津
	村井 和夫	松本
	山岸 栄次郎	順化
	平野 信三	明新
	上坂 秀雄	河合
	海道 隆男	鶉
	植木 正義	鷹巣
	久野 清彦	国見
	松並 久夫	本郷
	後藤 裕幸	東郷
	酒井 正義	一乗
	衣目 興市	上文珠
	平佐 多茂夫	文珠
	平馬 文雄	社南
	坪田 庄治	西藤島
	田村 栄子	旭
	村中 昭徳	東安居
	鶴飼 徳之	子ども会育 成連合会
	笠松 正子	連合婦人会
	中谷 幸一郎	青年グループ 連絡協
	市村 孝	老人クラブ 連合会
	中井 玲子	円山
	藤田 満雄	円山
	富田 一夫	交通安全推 進協連合会
	寺腰 正三	社南
	白崎 貞雄	宝永
	倉本 歡一郎	木田
	高橋 太歳	旭
	米村 美智子	和田
	中西 美代子	日新
	岸田 美枝子	NPOフォーラム 開催委員会

役職	氏名	地区
委員 (136名)	山下 徳太郎	順化
	林 達雄	清明
	石森 哲夫	春山
	野嶋 祐記	松本
	松田 篤	日之出
	森下 繁信	東安居
	伊坂 忠男	円山
	田上 義三	西藤島
	車屋 義隆	社西
	山下 征夫	社西
	野村 勳男	安居
	前田 喜代志	一光
	小川 綱行	中藤島
	山本 徳太郎	大安寺
	吉田 武男	河合
	長谷川 政	国見
	飛田 康裕	岡保
	安部 嘉幸	殿下
	吉田 則夫	栗
	谷口 昭二	鷹巣
	片川 秀則	宮ノ下
	寺岡 則夫	森田
	林 主計	酒生
	酒井 啓行	一乗
	中山 真治	六条
	小川 勇治	東郷
	酒井 三樹雄	明新
	中野 守一	順化
	吉田 孝顕	湊
	名部 信介	豊
	角谷 浩忠	清明
	虎尾 治	足羽
	白崎 俊輔	春山
	上坂 治	松本
	南部 繁秋	日之出
	坂井 清太郎	西藤島
	荒谷 俊二	社北
	藤井 健一	社西
	加畑 一吉	安居
	佐々木 光治	一光
	高木 淳一	中藤島
	寺井 光夫	河合
	藤井 輝雄	岡保
	天谷 功男	東藤島
	西出 俊亮	酒生
	吉村 正義	一乗
	吉田 正継	一乗
	宮北 元栄	上文珠
	川端 源一郎	文珠
	朝倉 成宣	東郷
	伊坂 禮二	明新
	谷本 健二	順化
	前田 勇	宝永
	増永 迪男	豊
	増田 憲治	木田
	小川 清	足羽
	宮川 脩	松本
	太刀内 敦	日之出
	野田 與次郎	旭
	清川 忠	和田
	川崎 栄忠	東安居
	柴田 甚一	円山
	野路 武夫	啓蒙
	笈田 亮一	社北
	坪田 一見	社西
	竹澤 善則	安居
	竹田 法英	一光
	荒谷 誠一	中藤島
	柳澤 一次	大安寺

役職	氏名	地区
委員	寺井 文夫	河合
	木村 健	麻生津
	重森 俊道	国見
	鈴木 利幸	岡保
	持田 英俊	東藤島
	長井 眞見	殿下
	山本 幹男	鶉
	室田 淳至	栗
	市川 智淳	鷹巣
	前田 英治	社北
	水元 賢治	本郷
	鈴木 誠一郎	宮ノ下
	高屋 正一	森田
	竹澤 輝治	酒生
	宮崎 好運	一乗
	西尾 肇	上文珠
	松浦 健夫	文珠
	児玉 憲治	六条
	為国 正	東郷
	西 高義	明新
	天谷 弘之	日新
	増田 弘章	岡保
	増永 秀則	順化
	藤井 賢二	宝永
	河野 恒之	湊
	石塚 之彦	豊
	金井 幸	木田
	飛山 敏男	清明
	野尻 章博	足羽
	岩佐 和則	春山
	宮川 哲男	松本
	坂上 千晶	日之出
	歌門 敬二	旭
	佐々木 敬蔵	和田
	野路 巽	東安居
	吉田 喜代隆	啓蒙
	桶師 幸恵	西藤島
	山形 利昭	社南
	酒井 忠行	社北
	皆川 潔	社西
	間所 泰次	安居
	前田 貞夫	中藤島
	漆崎 勝彦	大安寺
	山本 一彦	麻生津
	長谷川 倍義	国見
	橋本 美佐子	東藤島
	新明 輝美	殿下
	松崎 昭夫	鶉
	石森 千代子	栗
	豊岡 正	鷹巣
	小西 安一	本郷
	下野 宗彦	宮ノ下
	櫻川 幸夫	森田
	青山 幹男	酒生
	片岡 正行	一乗
	杉本 信治	上文珠
	村田 照夫	文珠
	水野 文雄	六条
	戸田 勝亮	東郷
	稲木 美苗	明新
	矢野 憲一	日新
	村尾 敬治	関係部長
	吹矢 清和	"
	花山 新一	"
	大村 順一	"
	柿本 静一	"
	田中 利憲	"
監事	宮本 貴章	青年会議所
	堀江 廣海	収入役